

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月30日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21390166

研究課題名（和文）経済連携協定に基づく外国人看護師の国際労働力移動と受入れシステム構築に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Support System for Foreign Nurses Introduced by Economic Partnership Agreement

研究代表者

平野 裕子（Yuko Ohara-HIRANO）

長崎大学・医歯薬学総合研究科・教授

研究者番号：50294989

研究成果の概要（和文）：

2008年より日本インドネシア経済連携協定（以下「JIEPA」）に基づき、インドネシア人看護師らが来日したのを皮切りに、2009年からは、日本フィリピン経済連携協定（以下「JPEPA」）に基づくフィリピン人看護師らが来日した。本制度における外国人看護師の導入は、国が公的な形で導入した最初の医療福祉専門職の受入れにあたり、今後の日本の受入れ態勢を整備すると同時に、国際化社会における看護師の移住の観点から起こりうる様々な問題を抱えていた。本研究では、JIEPA、JPEPA 制度に基づく外国人看護師の移住のパターンの比較を行う。本研究の研究成果の概要は以下のとおりである。

1. JIEPA、JPEPA では、看護師の受入れスキームは一部を除き、ほぼ共通していたが、実際に来日する看護師たちの社会的人口学的特徴及び来日動機は、インドネシア人、フィリピン人の間でかなり異なっていた。
2. 看護師の国籍によってかなり特徴は見られたにもかかわらず、日本の病院側は、「学習意欲がある者」「患者に対する接遇態度がよい者」を高く評価する傾向があり、その傾向には国籍別に差は見られなかった。
3. 病院側は、外国人看護師を受入れた後に職場が活性化したことを高く評価しており、その傾向には、受入れた看護師の国籍別に差は見られなかった。

研究成果の概要（英文）：

Japan has opened her domestic labor market for health care sector as a government policy for the first time since 2008, when she accepted Indonesian nurses under the Japan-Indonesia Economic Partnership Agreement. The following year, Japan has started to accept Filipino nurses under the Japan-Philippines Economic Partnership Agreement. Since these are the first cases for Japan to accept foreign professionals in health care sectors, Japan has many problems to be solved before establishing a better scheme to accept them. This study aims to identify the emerging issues with regards to the nurse migration under the above mentioned agreement.

The findings of this study were the followings:

1. Although the general scheme of accepting foreign nurses under the JIEPA and JPEPA was basically common, there were many differences in socio-demographic characteristics of nurses as well as their migration patterns.
2. Despite such difference of nurses, Japanese hospitals were likely to highly evaluate those who were eager to study, and had appropriate attitude toward patients.
3. Hospital evaluated that after they accepted foreign nurses, the workplace had become activated. This was observed regardless the difference of the nurses' nationality.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2011年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2012年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総計	13,800,000	4,140,000	17,940,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：外国人看護師・外国人介護士

1. 研究開始当初の背景

2008年より日本インドネシア経済連携協定（以下「JIEPA」）に基づき、インドネシア人看護師らが来日したのを皮切りに、2009年からは、日本フィリピン経済連携協定（以下「JPEPA」）に基づくフィリピン人看護師らが来日した。そして2014年からは日本ベトナム経済連携協定（以下「JVEPA」）に基づくベトナム人看護師らの受入れが始まろうとしている。

本研究開始当初は、本協定下での看護師の受入れが、公的な枠で医療専門職を導入した最初の例ということもあり、社会的にも大きな関心と呼んだ。しかし、外国人看護師らも、彼女らを送出す国も、また受入れる日本側や病院も、試行錯誤の状態であった。このため、本研究では、JIEPA、JPEPA に基づく外国人看護師の受入れの現状と課題を明らかにするために、基礎的なデータを、質的・量的研究法を用いて収集することに努めた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、

(1) JIEPA に基づくインドネシア人看護師の国際労働力移動に関する要因（来日動機、日本への期待、定住化傾向等）やその社会的背景（インドネシアにおける看護師の社会的地位、業務権限、及びケアの文化等）を明らかにする。

(2) JPEPA に基づくフィリピン人看護師の国際労働力移動に関する要因（来日動機、日本への期待、定住化傾向等）やその社会的背景（フィリピンにおける看護師の社会的地位、業務権限、及びケアの文化等）を明らかにする。

(3) JIEPA、JPEPA に基づく外国人看護師受入れに関する、日本の医療機関側・地域社会の受入れ態勢や、その社会経済的背景を明らかにする。

上記を通じて、外国人看護師の出身国の文

化や社会的背景に応じた、地域社会レベルでの受入れシステム構築に関する提言を行う。

3. 研究の方法

(1) JIEPA に基づくインドネシア人看護師の国際労働力移動に関する要因およびその社会的背景に関する研究

2009年（インドネシア人候補者第二陣）から2012年（インドネシア人候補者第五陣）にかけて、以下の方法において、情報収集を行った。まず、インドネシアにおける看護師や看護学生に対する聞き取り調査を実施し、さらにインドネシアでは配票調査（Hirano and Wulansari, 2009）を行い、日本で看護師として働く意志の有無や、その理由及び社会的経済的背景等について明らかにした。これらのデータをもとにA4サイズ4枚の調査票（含：来日動機、日本に関する情報の理解度、General Health Questionnaire等）を作成し、インドネシア語に翻訳し、在日インドネシア人に依頼して、プリテストを行った。次に、インドネシア側の送出し機関である海外労働者派遣・保護庁等の協力を得、来日前の日本語研修時またはオリエンテーション時に、研修対象者全員に対して、調査の意図を説明し、自由意思による参加であること、個人情報保護されることなどを説明し、自記式無記名調査票を配布した。（回収率：100%）

(2) JPEPA に基づくフィリピン人看護師の国際労働力移動に関する要因およびその社会的背景に関する研究

2009年（フィリピン人候補者第一陣）から2012年（フィリピン人候補者第四陣）にかけて、以下の方法において、情報収集を行った。まず、フィリピンにおける看護師や看護学生に対する聞き取り調査及び先行研究の結果（Ishii and Hirano, 2009）を参照し、

日本で看護師として働く意志の有無や、その理由及び社会的経済的背景等について明らかにした。これらのデータをもとにA4サイズ4枚の調査票（含：来日動機、日本に関する情報の理解度、General Health Questionnaire等）を作成し、英語に翻訳し、在日フィリピン人に依頼して、プリテストを行った。次に、フィリピン側の送出し機関である海外雇用庁の協力を得、来日前のオリエンテーション時に、研修対象者全員に対して、調査の意図を説明し、自由意思による参加であること、個人情報保護されることなどを説明し、自記式無記名調査票を配布した。（回収率：98-100%）

(3) JIEPA、JPEPAに基づく外国人看護師受入れに関する、日本の医療機関側受入れ態勢及び社会経済的背景に関する研究

JIEPAに基づき、第一陣のインドネシア人看護師候補者を受入れた全国47病院（回収率：57.4%）と、JPEPAに基づき、第一陣のフィリピン人看護師候補者を受入れた全国の45病院（回収率：66.6%）を対象とした配票調査を行った。調査内容は、受入れ動機、EPAに対する意見、今後の外国人看護師の雇用に対する見解等である。これらの調査は、いずれも、外国人看護師らが来日してから半年後のタイミングで行った。

4. 研究成果

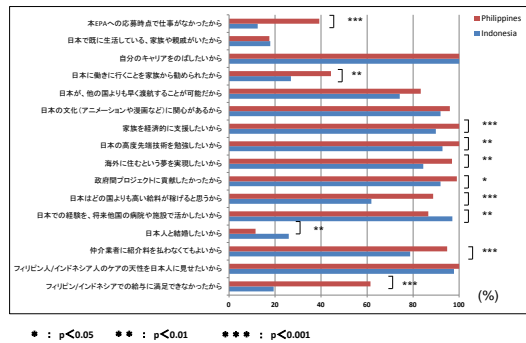
(1) インドネシア人看護師・フィリピン人看護師の相違点（インドネシア第二陣、フィリピン第一陣の比較）

	インドネシア人看護師 (n=144)	フィリピン人看護師 (n=100)	p値
女性 (%)	82.0	88.9	n.s.
平均年齢 (標準偏差)	27.1 (3.2)	32.0 (4.8)	p<0.001
既婚者 (%)	26.4	55.6	p<0.001
子供あり (%)	26.2	58.6	p<0.001
ジャカルタ/マニラ首都圏出身者 (%)	14.6	30.9	p<0.01
長子である者 (%)	64.3	35.7	n.s.
家族の経済状況が困難である者 (%)	25.7	68.0	p<0.001
来日前に、海外で看護師として働いた経験がある者	7.0	30.9	p<0.001
海外で看護師・ケアワーカーとして働く親戚がいる者	7.6	30.3	p<0.001
以前日本で生活した経験がある者 (%)	2.8	6.0	n.s.
日本社会や文化についてよく知っている/どちらかといえば良く知っている者 (%)	21.0	22.0	n.s.
日本語を勉強した経験がある者 (%)	19.4	8.0	p<0.01
日本語能力試験 (JLPT)を受けた経験がある者 (%)	2.5	0	n.s.

来日動機	性別		経験別				変遷の経済状況				p値							
	インドネシア		フィリピン		インドネシア		フィリピン		インドネシア			フィリピン						
	男性(N)	女性(N)	男性(N)	女性(N)	経験あり	経験なし	経験あり	経験なし	経験あり	経験なし		経験あり	経験なし					
本EPAへの応募時点で仕事が終わらなかったから	130	111	n.s.	273	412	n.s.	143	113	n.s.	442	341	n.s.	152	117	n.s.	439	299	n.s.
日本で既に生活している、家族や親戚がいたから	273	148	n.s.	91	188	n.s.	200	168	n.s.	115	250	n.s.	121	198	n.s.	126	258	n.s.
自分のキャリアを伸ばしたいから	1000	1000	-	1000	1000	-	1000	1000	-	1000	1000	-	1000	1000	-	1000	1000	-
日本に働きに行くことを家族から勧められたから	118	243	n.s.	273	411	n.s.	208	255	n.s.	385	523	n.s.	412	320	n.s.	408	470	n.s.
日本が、他の国よりも早く就職することが可能だから	727	745	n.s.	727	847	n.s.	719	763	n.s.	808	864	n.s.	839	711	n.s.	864	767	n.s.
日本の文化(コミュニケーションや習慣など)に関心があるから	913	917	n.s.	1000	954	n.s.	889	937	n.s.	926	1000	n.s.	914	920	n.s.	955	969	n.s.
家族を経済的に支援したいから	909	911	n.s.	1000	1000	-	919	898	n.s.	1000	1000	-	1000	864	n.s.	1000	1000	-
日本の高度先端技術を勉強したいから	913	937	n.s.	1000	1000	-	971	911	n.s.	1000	1000	-	886	942	n.s.	1000	1000	-
海外に住むという夢を現実化したいから	609	604	n.s.	1000	964	n.s.	917	813	n.s.	942	1000	n.s.	872	798	n.s.	901	885	n.s.
政府プロジェクトに興味があったから	957	907	n.s.	1000	989	n.s.	973	886	n.s.	981	1000	n.s.	944	910	n.s.	1000	969	n.s.
日本はどの国よりも高い給料が得られると思うから	650	604	n.s.	658	918	n.s.	618	622	n.s.	904	964	n.s.	727	581	n.s.	654	671	n.s.
日本での経験も、将来他国の病院や施設で活かしたいから	980	972	n.s.	1000	847	n.s.	944	980	n.s.	865	864	n.s.	873	970	n.s.	864	871	n.s.
日本人と結婚したいから	180	283	n.s.	182	95	n.s.	88	337	n.s.	209	209	n.s.	250	250	n.s.	123	97	n.s.
仲介業者に紹介料を払わなくてもいいから	762	784	n.s.	909	952	n.s.	861	753	n.s.	941	955	n.s.	719	811	n.s.	870	960	n.s.
フィリピン/インドネシア人のケアの質を日本人に見せたいから	917	981	n.s.	1000	1000	-	973	979	n.s.	1000	1000	-	972	960	n.s.	1000	1000	-
フィリピン/インドネシアでの給与に満足できなかったから	918	173	n.s.	727	607	n.s.	829	176	n.s.	635	605	n.s.	412	116	n.s.	680	682	n.s.

インドネシア人とフィリピン人では、年齢・属性、来日動機ともに異なることが明らかになった。具体的には、インドネシア人に比べフィリピン人の方で既婚者の割合が高く、経済的状況が困難と回答している者の割合が高かった。

図1. 来日動機(国別)



また、来日動機については、キャリア形成等、国籍に関係なく、すべての候補者の間で該当すると回答されている傾向が明らかになった。一方、来日動機の第一を比較すると、インドネシア人はキャリア形成、フィリピン人は経済的な動機付けが強いことが明らかになった。

図2. インドネシア人看護師候補者の来日動機 (第1位)

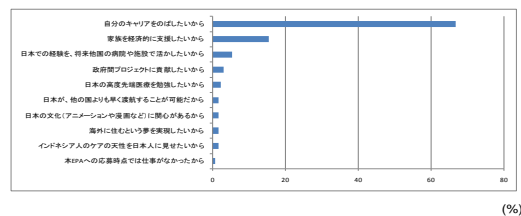
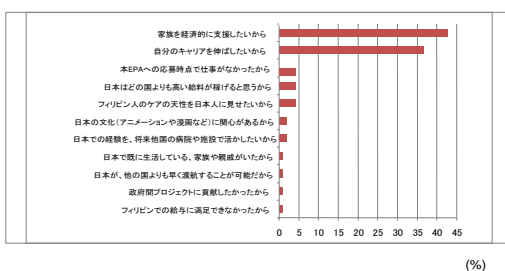


図3. フィリピン人看護師候補者の来日動機 (第1位)



(2) 外国人看護師受入れに関する評価

インドネシア人受入れ病院は看護職（看護部長等）による回答は25.9%であったのに対し、フィリピン人受入れ病院においては70.0%であった。

外国人看護師受入れに対する総合得点と、外国人看護師候補者に対する評価得点との

図4を見ると、フィリピン人看護師受入れ病院における看護師候補者に対する評価は、全項目において相関をみていた。つまり、インドネシア人看護師に対してよりも、フィリピン人看護師に対して、より評価基準がはっきりしてきたことを示すものと思われるが、これは回答者が看護職者かどうかによって左右されるとも考えられる。特に、日本の病院側は、「学習意欲がある者」「患者に対する接遇態度がよい者」を高く評価する傾向があり、その傾向には国籍別に差は見られなかった。

受入れた看護師の国籍にかかわらず、職場が活性化したことは看護師の受入れに対する総合評価と強い相関を見ていた。(図6)

図4外国人看護師受入れに対する総合評価との相関(候補者に対する評価)

	インドネシア人看護師 (2009年2月配属)	P値	フィリピン人看護師 (2009年12月配属)	p値
①身体介助の技術が高い	388*		439*	
②身体や病状に対する知識がある	397*		725**	
③性格が明るい	032		598**	
④辛抱強く業務に当たる	311		687**	
⑤学習意欲が高い	499**		661**	
⑥時間を遵守する	113		734**	
⑦協調性がある	375		611**	
⑧よく気が効く	306		748**	
⑨接遇態度がよい	437*		657**	
⑩敬老精神がある	323		660**	
⑪患者との日本語での会話が可能なくできる	272		563**	
⑫日本人スタッフとの日本語での会話が可能なくできる	102		643**	
⑬看護記録作成に必要な日本語の読み書きができる	246		507**	

*p<0.05, **p<0.01

図5外国人看護師受入れに対する総合評価との相関(外国人看護師らの今後の雇用について)

	インドネシア人看護師 (2009年2月配属)	P値	フィリピン人看護師 (2009年12月配属)	p値
①日本人看護師が不足しているかどうかに関わらず受け入れる	655**		743**	
②日本人の業務補助者として受け入れる	367		202	
③今後もEPA枠組で(現在受け入れているのと別国の)看護師候補者を受け入れる	693**		758**	
④今後、EPA枠組で(現在受け入れているのと別国の)看護師候補者を受け入れる	380		631**	
⑤EPA枠組で入国する(現在受け入れているのと別国の)介護福祉士候補者を受け入れる	306		743**	
⑥EPA枠組で入国する(現在受け入れているのと別国の)介護福祉士候補者も受け入れる	300		566**	
⑦EPA枠組で入国する看護師候補者以外に、外国人看護職も受け入れる	270		613**	

*p<0.05, **p<0.01

図6外国人看護師受入れに対する総合評価との相関(職場の変化)

	インドネシア人看護師 (2009年2月配属)	P値	フィリピン人看護師 (2009年12月配属)	p値
①職場が活性化した	668**		696**	
②日本人スタッフの日本語の言葉づかいが丁寧になった	107		595**	
③日本人スタッフが明確な表現でコミュニケーションを取るようになった	-132		402*	
④日本人スタッフが異なる文化を理解するきっかけとなった	277		638**	
⑤患者が以前よりもいきいきしてきた	477*		503**	
⑥日本人スタッフが、「看護」とは何が、改めて考えるようになった	290		663**	
⑦教育担当者の仕事量が増えた	-035		-187	
⑧病院の財政的負担が大きくなった	-113		249	
⑨宗教面での配慮が必要となった	054		379*	
⑩患者とのトラブル対処が必要となった	181		-553**	
⑪日本人スタッフとの人間関係で調整が必要となった	-060		-665**	
⑫候補者の生活費に関する対処が必要になった	-		-317	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 52 件)

- ① HIRANO Y. O., OGAWA R., OHNO S.: A Comparative Study of Filipino and Indonesian Candidates for Registered Nurse and Certified Care Worker Coming to Japan under Economic Partnership Agreements: An Analysis of the Results of Questionnaire Survey on the Socioeconomic Attribution of the Respondents and Their Motivation to Work in Japan, *South East Asian Studies*, 査読有, 49(4), 594-610, 2012.
- ② HIRANO Y. O.: The Mental Health status of Indonesian Candidates Leaving for Japan under the Japan-Indonesia Economic Partnership Agreement: After the Great East Japan Earthquake, *International Journal of Japanese Sociology*, 査読有, 21, 37-45, 2012.
- ③ KAWAGUCHI Y., HIRANO Y. O., OGAWA R., OHNO S.: Exploring Learning Problems of Filipino Nurse Candidates Working in Japan: Based on Results of a Practice National Board Examination of Japan Given in English, *Southeast Asian Studies*, 査読有, 49(4), 643-651, 2012.
- ④ OGAWA R.: Globalization of Care and the Context of Reception of Southeast Asian Care Workers in Japan, *Southeast Asian Studies*, 査読有, 49(4), 570-593, 2012.
- ⑤ OGAWA R.: Globalization of Care and the Context of Reception in Japan, *Journal of Southeast Asian Studies*, 査読有, 49(4), 570-593, 2012.
- ⑥ OGAWA R.: Conceptualizing Transnational Migration of Care Workers: Between 'skilled' and 'unskilled', *ASIEN: The German Journal on Contemporary Asia*, 査読有, 124, 95-114, 2012.
- ⑦ 平野裕子: 看護師の国際移動と日本における現実、*保健医療社会学論集*、査読有、21(2)、12-29、2011.
- ⑧ 川口貞親: フィリピン人・インドネシア人の看護師候補者の教育と課題、*保健医療社会学論集* (日本保健医療社会学会)、査読有、21(2)、30-34、2011.
- ⑨ 大野俊: 看護・介護分野における労働市場開放をめぐる国際社会学的研究の成果と課題、*保健医療社会学論集*、査読有、21(2)、35-52、2011.
- ⑩ 川口貞親、平野裕子、小川玲子、大野俊: 外国人看護師候補者の教育と研修の課題—フィリピン人候補者を対象とした国家試験模擬試験調査を通して—、*九州大学アジア総合政策センター紀要*、査読有、5: 141-146、2010.
- ⑪ 川口貞親、平野裕子、大野俊: 日本の全国病院における外国人看護師受け入れに関する調査(第3報)—地域別差異の検討—、*九州大学アジア総合政策センター紀要*、査読有、5: 147-152、2010.
- ⑫ 平野(小原)裕子、小川玲子、川口貞親、大野俊: 二国間経済連携協定に基づくインドネシア人看護師候補者導入に関する研究—受入れ施設に対する調査から—、*看護管理*、査読有、20(6): 509-515、2010.

- ⑬ 小川玲子、平野裕子、川口貞親、大野俊：来日第1陣のインドネシア人看護師・介護福祉士候補者を受け入れた全国の病院・介護施設に対する追跡調査（第1報）—受け入れの現状と課題を中心に—、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、5：85-98、2010.
- ⑭ 平野裕子、小川玲子、川口貞親、大野俊：来日第1陣のインドネシア人看護師・介護福祉士候補者を受け入れた全国の病院・介護施設に対する追跡調査（第2報）—候補者及び経済連携協定スキームの評価に関連する要因の分析を中心に—、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、5：99-111、2010.
- ⑮ 平野裕子、小川玲子、川口貞親、大野俊：来日第1陣のインドネシア人看護師・介護福祉士候補者を受け入れた全国の病院・介護施設に対する追跡調査（第3報）—受け入れの実態に関する病院・介護施設間の比較を中心に—、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、5：113-125、2010.
- ⑯ Hirano Y., Ogawa R., Ohno S.：How do Japan's Hospitals Evaluate the Economic Partnership Agreement Scheme?: A Comparative Survey between Hospitals Accepting the First Batch of Foreign Nurses and Those Accepting the Second Batch, Bulletin Of Kyushu University Asia Center, 査読有, 5, 127-140, 2010.
- ⑰ 大野俊：岐路に立つ台湾の外国人介護労働者受け入れ—高齢者介護の市場化と人権擁護の狭間で、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、5、69-83、2010.
- ⑱ 安立清史、大野俊、平野裕子、小川玲子、クレアシタ：来日インドネシア人、フィリピン人介護福祉士候補者の実像、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、5、147-152、2010.
- ⑲ OGAWA R.：Migration of Indonesian Care Workers under the Japan-Indonesia Economic Partnership Agreement, Urban Policy Studies, 査読有, 4, 61-75, 2010.
- ⑳ 小川玲子：来日第1陣のインドネシア人看護師・介護福祉士候補者を受け入れた全国の病院・介護施設に対する追跡調査（第1報）—受け入れの現状と課題を中心に—、『九州大学アジア総合政策センター紀要』、査読有、5、85-98、2010.
- 21 OGAWA R.：Migration of Indonesian Care Workers under the Japan-Indonesia Economic Partnership Agreement, Urban Policy Studies, 査読有, 4, 61-75, 2010.
- 22 小川玲子、王増勇、劉曉春：「東南アジアから東アジアへの国際移動と再生産労働の変容」、アジア女性研究、査読有、19、18-38、2010.
- 23 平野裕子、小川玲子、大野俊：経済連携協定に基づいて来日するインドネシア人およびフィリピン人看護師候補者に対する比較調査—社会経済的属性と来日動機に関する配付票調査結果を中心に—、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、5、153-162、2010.
- 24 朝倉京子、朝倉隆司、平野裕子、兵藤智佳：日比EPA締結後のフィリピンにおける看護の情勢・政策の現状—フィリピン人看護師の国際移動を支える社会システムの現状と日本進出の可能性（第2報）、看護管理、査読有、20(6)、519-519、2010.
- 25 川口貞親、平野（小原）裕子、大野俊：日本全国の病院における外国人看護師受け入れに関する調査（第1報）—結果の概要、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、3：53-58、2009.
- 26 川口貞親：日本、フィリピン、インドネシアの看護教育カリキュラムの比較、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、3：91-104、2009.
- 27 平野裕子、川口貞親、大野俊：日本全国の病院における外国人看護師受け入れに関する調査（第2報）—病院および回答者の属性別分析、九州大学アジア総合政策センター紀要、査読有、3、59-66、2009.
- 〔学会発表〕（計27件）
- ① 川口貞親：看護師の国家試験模擬試験の得点に関するデータ解析—フィリピン人看護師候補者、インドネシア人看護学生を対象とした調査から、第19回多文化間精神医学会学術総会、2012年6月23-24日、福岡
- ② 大野俊：看護分野における諸外国の移民受入れ制度と課題、第19回多文化間精神医学会学術総会、2012年6月23-24日、福岡
- ③ 平野裕子：いかに「第二の開国」を進めるべきか—EPAに基づく外国人看護師受入れの今後の課題、第19回多文化間精神医学会学術総会、2012年6月23-24日、福岡
- ④ Hirano Y.O.：The Mental Health Status of Indonesian candidates leaving for Japan after The Great East Japan Earthquake, 2nd International Sociological Association: Forum of Sociology, August 1-4, 2012, Buenos Aires
- ⑤ 平野裕子、大野俊、小川玲子：東日本大震災後に来日したインドネシア人看護師・介護福祉士候補者の来日前の精神的健康度に関連する要因、第31回日本社会精神医学会、2012年3月16日、東京
- ⑥ OGAWA R.：Southeast Asian Migrants and Care Work in Japan, 1st World Congress on Healthy Ageing, Symposium on Social Policy and Long Term Care, 2012年3月22日、Kuala Lumpur
- ⑦ OGAWA R.：Migration of Southeast Asian Care Workers to Japan: Three Years after its Implementation, Population Dynamics in East and Southeast Asia, 2012年3月29日、London
- ⑧ 平野裕子：経済連携協定に基づく外国人看護師導入のその後、日本私立看護系大学協会研修会、2011年9月27日、東京
- ⑨ 平野裕子：外国人看護師から学ぶもの—多文化共生の立場から—、第18回多文化間精神医学会総会、2011年10月1日、東京
- ⑩ OGAWA R.：Globalization of Communities for Care, Anthropology of Japan in Japan (AJJ) 2011, Annual Spring Workshop, Kanazawa University, 2011年4月23日、金沢

- ⑪ OGAWA R., : Potential and Risk for Migration of Indonesian Care Workers, The Preparation Program for Indonesian Nurses who will work in Japan to Prevent the Job and Socio-cultural Stress, National University of Indonesia, 2011年7月28日、Depok
- ⑫ 平野裕子：二国間経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士候補者の導入—その課題と可能性、第36回日本保健医療社会学会大会、2010年5月16日、山口
- ⑬ 平野裕子：二国間経済連携協定に基づくインドネシア・フィリピンからの看護師の受け入れ—そのインパクトと今後期待される可能について、第8回福祉社会学会大会、2010年5月29日、福岡
- ⑭ HIRANO Y.O. : Accepting Indonesian Nurses in Japan: A Comparative Survey between Hospitals and Long-term Care Facilities. Towards Age-Friendly Communities: Fukuoka Active Aging Conference in Asia/Pacific, 2010年10月31日、福岡
- ⑮ HIRANO Y.O. : A Study of Foreign Nurses Accepted by the Economic Partnership Agreement - A Comparative Study of Filipino and Indonesian Nurses, The 2nd Philippine Studies Conference of Japan, Tsukuba, 2010年11月14日、つくば
- ⑯ OHNO S.: Sustainability and Uniqueness of Japan's Policy to Accept Foreign Care Workers, Fukuoka Active Aging Conference in Asia and Pacific, 2010年10月31日、福岡
- ⑰ OHNO S.: Introduction to Transnational Migration of Care Workers, The 2nd Philippine Studies Conference of Japan, Tsukuba, 2010年11月14日、つくば
- ⑱ 川口貞親：フィリピン人・インドネシア人看護師候補者の教育と課題、第36回日本保健医療社会学会、2010年5月16日、山口
- ⑲ 川口貞親：看護の国際化と外国人看護師候補者の教育の現状、第8回福祉社会学会大会、2010年5月29日、福岡
- ⑳ 大野俊：九州大学教育研究形成プロジェクト『日本の労働市場開放をめぐる国際社会学的研究—介護・看護分野を中心に』の概要、第36回日本保健医療社会学会シンポジウムでの招待討論、2010年5月29日、山口
- 21 大野俊：日本と東南アジア諸国間の経済連携協定とケアワーカーの国際移動、フィリピン看護師・介護士はいま日本に何を思うか、2010年11月17日、福岡
- 22 大野俊：日本の労働市場開放をめぐる国際社会学的研究—介護・看護分野を中心に—の概要、第36回日本保健医療社会学会大会、2010年5月16日、山口
- 23 大野俊：ケアは国境を越えられるか？—東南アジアからの看護・介護労働者受け入れ問題を中心に、文部科学省「平成21年度組織的な大学院教育改革推進プログラム」静岡大学人文社会科学研究科主

催公開講演会、2010年10月19日、静岡

- 24 OGAWA R. : Philippine Care Workers and Cross Cultural Care, The Second Philippine Studies Conference of Japan: Remapping the Philippines in the Globalizing World, 2010年11月14日、つくば
- 25 OGAWA R. : Potential and Risk for Transnational Nobilities for Care, Fukuoka Active Aging Conference in Asia/Pacific, 2010年10月31日、福岡
- 26 小川玲子：グローバル化するケア労働—経済連携協定による東南アジアからの介護福祉士の国際移動を中心に、日本平和学会春季研究大会、2010年6月20日、東京
- 27 小川玲子：グローバル化するケアと東南アジアからの介護職の受け入れ、福祉社会学会開催校企画シンポジウム、2010年5月29日、福岡

[図書] (計2件)

1. 平野裕子、大野俊、小川玲子 編：アジアの看護を理解しよう—2国間経済連携協定に基づき 来日中のインドネシア人・フィリピン人看護師を受け入れて—報告書 長崎大学、査読有、1-97、2012.
2. 大野俊、小川玲子 編：国際シンポジウム『東南アジアから日本へのケアワーカー移動をめぐる国際会議—政策担当者と研究者の対話』報告書』九州大学アジア総合政策センター、査読無、1-174、2010.

[その他]

- ① 西日本新聞 (平成25年1月14日)
- ② 共同通信 (平成24年4月25日)
- ③ NHK (平成24年4月10日)
- ④ じゃかるた新聞 (平成24年3月27日)
- ⑤ 毎日新聞 (平成23年11月3日)
- ⑥ 朝日新聞 (平成23年6月14日)
- ⑦ 西日本新聞 (平成23年5月16日)

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
平野 裕子 (Yuko Ohara-HIRANO)
長崎大学・医歯薬学総合研究科・教授
研究者番号：50294989
- (2) 研究分担者
小川 玲子 (Reiko OGAWA)
九州大学大学院法学研究院・准教授
研究者番号：30432884
- (3) 研究分担者
川口 貞親 (Yoshichika KAWAGUCHI)
産業医科大学産業保健学部・教授
研究者番号：00295776
- (4) 連携研究者
大野 俊 (Shun OHNO)
清泉女子大学文学部・教授
研究者番号：10448409